

めざす児童生徒像

学校スローガン 目指す児童像	【子どもが主役の学校】 【じ】自分で考え行動する	学校教育目標 【も】もっと良くなろうとする 【と】共に学ぶ 思いやる	仲間と共によりよい社会を切り拓く資質・能力の確実な育成
-------------------	-----------------------------	--	-----------------------------

※児童生徒結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間				年度末				達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			※差	数値・アンケート結果 (%)			※差		
				教員	児童	保護者		教員	児童	保護者			
(学校で設定)	子どもが主役の学校	全項目80%以上達成	「子どもが主役」の学校づくりを目指し教育活動を行っている	100				92.9				教職員・児童アンケートの肯定的回答の割合が下がった項目が多い。一方保護者アンケートの肯定撤回等の割合もやや下がったものの、中間評価とほぼ同じ数値であった。2学期は、授業をはじめ様々な教育活動で「子どもが主役」を目標に設定して実践したことで、課題が見出されたことも影響していると考えられる。	授業を中心にして、引き続き「子どもが主役」の学校づくりを目指して取り組み、今年度初めて取り組んだことで見出された課題や疑問を共有し手立てを講ずることによって、今年度につなげ生かしていく。同様に成果も積極的に見取り、さらに実践できるように共有していく。
			【じ】児童は、自分で考え行動している。	100	95	86.5		85.7	94.3	91.4			
			【も】児童は、よりよくなろうと努力している。	92.9	95	85.7		100	90.8	84.5			
			【と】児童は、お互いの考えや思いを大切にしながら活動しようとしている。	85.7	92.9	94.6		92.9	92.2	93.9			

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間				年度末				達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			※差	数値・アンケート結果 (%)			※差		
				教員	児童	保護者		教員	児童	保護者			
重点項目 石川県共通	働き方や業務の改善	全項目80%以上達成	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	78.6				78.6				多くの項目で、教職員アンケートの肯定的回答の割合が中間評価と同じであった。しかし、ワークライフバランスの実感についての項目では、割合が21.5%下がっている。2学期に大きな行事が多く行われたり実施時期を変更したりすることで業務量が集中することがあったことも原因の一つと考えられる。	時間外勤務の削減は引き続き工夫していく。次年度に向け、業務の精選を続けていく。本来学校が担わない活動等については協議のうえ保護者や地域に依頼していく。年間を通じた業務の平準化のためにも、年間行事計画を見直しをもって立て、適切に行事等を行うことができるようにしていく。
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	92.9				92.9					
			③ 気軽に相談できる環境が整っている。	100				100					
			④ ワークライフバランスが整っていると実感している。	92.9				71.4					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)				※差	数値・アンケート結果 (%)				※差	達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			※差		数値・アンケート結果 (%)			※差			
				教員	児童	保護者		教員	児童	保護者					
小松市共通重点項目	学校研究	各項目80%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100				81.8				①②どちらとも80%を保つことができた。学力調査の分析から低かった分野を重点課題とし、国語科と算数科で単元構想シートを作成するなどした。 ②では、授業づくり研修会を開き、教材作成を全員で行った。各項目80%以上になったが、中間評価に比べ、①は下がった。学級担任と級外との状況によるものかなと感じる。	今年度のように全員で共通実践していくことを続けて、研究授業での学びが繋がっていくようにより充実した校内研修にしていきたい。級外の先生方にも声をかけながら、全員で取り組めるよう進めていきたい。		
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語り、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100				100							
			③ 児童が学習形態を判断・選択し、自己調整しながら学びを進めるための工夫をしている。	91.7	87.2			90.9	90.8						
	指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①②⑤の項目で80%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	91.7	92.9		1.2	91.7	91.5		-0.2	①②⑤すべての項目で80%以上となった。 ①では教員児童共に同じような評価なため、自分から考え行動することが身についてきているといえる。 ②では中間に比べ、教員の評価が上がっている。対話等の練習の成果が授業中にも活かされつつあると考えられる。 ⑤は教員と児童の差が大きい。教員が思っているよりも児童は授業によっての学びの変容やを実感したり達成感を得られたりしていないことが分かる。	①②⑤どの項目も少しだが児童の評価が中間に比べ低くなった。年度初めは皆が新しいことに一生懸命取り組んでおり、継続してきたことでそれが当たり前になってきたこと、それに伴いあまり力を入れていないという意識になっていることが推測される。そのため、意欲を継続させるためにも、常に教員が声掛けしよい姿を認めていきたい。 ⑤では、振り返りの中でじっくり自分と向き合えるように時間の確保をしたり、学びに達成感を感じられるよう教材研究をし、場の工夫をしていきたい。	
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	66.7	87.9		21.2	83.3	86.5		3.2			
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	41.7	87.9		46.2	58.3	85.1		26.8			
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	66.7	85.1		18.4	83.3	87.9		4.6			
				⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	100	87.2		-12.8	100	85.8		-14.2			
				⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	91.7	89.4		-2.3	91.7	90.1		-1.6			
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①~③の項目が80%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	90.9				90.9				①②③の項目で、目標指標を上回った。教育課程全般を通して児童を育てる意識を職員間で共有し実践してきたことが、成果として表れてきている。学力調査の分析から国語科と算数科で重点課題を決めて系統的に取り組んできたことも要因の一つと考えられる。	今年度の成果と課題、児童の実態と目指す児童像を照らし合わせて次年度の教育課程を作成していく。児童自身も、めあてを持ち実践し、振り返って次につなげるPDCAサイクルを確立しながら成長していけるよう、今後もキャリア教育を進めていく。 ④の小中連携については、共通のテーマをもとに交流するなど、方法を検討する必要があると感じる。	
				② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	81.8				100						
				③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0				100						
④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)				70.0				54.5							
家庭学習	①②ともに80%以上		① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	100	77	68.9	-23	90	74	67.9	-16	①の家庭学習の取組について、家庭学習強化週間の取組や結果を保護者に共有してきた。「取り組み時間」についてはどの学年も1学期に比べて増えたが、「内容の計画」については低く、教員との差が大きい。 ②の学習用端末の家庭での活用について、数値的に少し改善が見られたが、学年による取組状況の差が大きい。	①については、今後も家庭学習強化週間の取組や結果を保護者に周知して協力を得られるようにする。重点項目を学年ごとの目標に応じて設定するなど、自立した学びの育成を目指して実践を積み重ねていく。 ②については、全校で共通して進めているよう実践交流の行い方を検討していく。		
			② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	70	58.9		-11.1	70	64.5		-5.5				

令和6年度小松市立荒屋小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>（生徒指導の4つの視点を生かした学校づくりを通して、「自己指導能力」を育む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活目標と道徳、特別活動等で系統的な指導をする。 生徒指導の4つの視点を教職員が共通理解、共通実践を行えるよう、チェック表で毎月振り返る。 どの項目も80%以上になるよう、意識できるよう伝える。 生活目標や道徳で学んだ価値のよさを実感できるようにするために、諸問題が起きた時に、生活目標に関連させて指導するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートの「生活目標と道徳、特別活動等で系統的な指導をする」の設問では、肯定的な回答の割合が100%であった。2学期も引き続き、共通理解・共通実践を進めていきたい。 生徒指導の4つの視点の振り返りを毎月行った。「承認や賞賛、励まし」と「教師との信頼関係を深めた」の項目が、1学期を通して80%以上の達成率であった。振り返りからの課題を周知することが遅れてしまうことが原因と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートの「生活目標と道徳、特別活動等で系統的な指導をする」の設問では、肯定的な回答の割合が91.7%であった。学年末に向け、目的意識や相手意識を高め、周知し共通理解・共通実践を進めていきたい。 児童アンケートから生徒指導の4つの視点に絡めた内容である「自分で考え、行動している」「よりよくなろうと努力している」「お互いの考えを大切にしながら、活動している」の項目が全て、90%以上と肯定的な回答が多く、4つの視点を意識した指導と生活目標や道徳の関連させた指導の成果と言える。
特別支援教育	<p><児童の生活の様子や学習状況等の情報交換と個に応じた適切な支援></p> <ul style="list-style-type: none"> 気づき票により支援が必要な児童を把握し、校内委員会で支援の仕方を協議し、共通理解をする。 学習支援が必要な児童を把握し、特別支援教育支援員や通級教室と協力し、可能な限り必要な支援が行き届くようにする。 情報交流を密にし、必要な場合は校内委員会を開催したり専門相談につなげたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 気づき票を書くことで、支援が必要であったり、今後支援が必要になりそうだったりする児童を把握することができた。点数の高かった児童については、校内委員会を開催し、具体的な支援策を話し合った。支援策をどのように全体で共通理解するか今後検討したい。 学習支援を必要としている児童に支援ができるよう配置していったが、支援員は足りない状態である。通級教室の利用は増えている。 情報交流に関する教職員アンケートの結果の肯定的割合が100%であった。実際に校内委員会を開き、専門相談につなげ、支援の助言をおおぐことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートの結果100%であるように、特別支援教育支援員の協力によって、学習支援が必要な児童に、個別の声かけや支援をすることができた。 個別に支援が必要な児童が増えており、支援員のサポートをよりいっそう求める声が多くなっている。 通級教室と連携し、支援が必要な児童に適切な学習支援を受ける時間をつくることができた。 通級を利用している児童は10名になる。3学期に新たに専門相談員と連携して支援策を協議する予定である。
道徳教育	<p><道徳性の涵養></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校重点指導内容をA主として自分自身に関すること「希望と勇氣、努力と強い意志」に設定する。日常的に学校生活の様々な場面でも取り上げて指導する。 保護者に道徳の授業を公開したり、保護者と児童が道徳の内容について共に考える機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教育課程で、学校重点指導内容を意識しながら、職員で共通理解のもと進めることができた。2学期も全職員で足並みをそろえて日常的に学校生活の様々な場面で取り上げて指導する。 保護者に道徳の授業の学びを知ってもらうための道徳ノートの持ち帰り週間を設定した。保護者と児童が道徳の内容について共に考える機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期と同様に、職員で共通理解のもと進めることができた。教科や各行事など関連付けながら自分の立てためあてや課題を達成するためにどのような意識や行動が目標達成につながるかを考えさせながら、学校生活の様々な場面で取り上げて指導することができた。 保護者に道徳の授業の学びを知ってもらうための道徳ノートの持ち帰り週間を設定したり、道徳通信を発行したりした。保護者と児童が道徳の内容について共に考える機会を設定することができた。
読書教育	<p><読書の質的な向上></p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館利用計画に基づいて各教科での調べ学習や並行読書として図書を活用し、様々な分類の本に親しむ機会を設定する。 「読書祭り」や「家庭読書」等、休み時間や家庭でも読書に親しめるような機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、国語や社会、総合的な学習の時間に並行読書として図書を活用しているが、より活用率を上げ読書の質や量を向上するために図書館利用計画を定期的に回覧し授業での活用を呼び掛ける。また、成果物が見られるように展示や掲示を行う。 1学期の読書祭りは図書委員が中心となって2つの企画を行った。喜んで参加している児童はいるが参加率が高くない。企画するだけでなく企画を盛り上げるための工夫も必要である。 熱中症対策として図書ボランティアによる休み時間の読み聞かせを何度か行った。毎回児童が楽しみに参加していた。児童が本に親しむ機会にもなり、よかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館利用計画を毎月回覧し、授業での活用を呼び掛けたことで計画的に実施することができた。図書に関連した各学年の成果物も展示した。今後も継続し、活用の場としていく。 読書祭りでは、運動会の団対抗で貸出冊数を競う「読書バトル」を企画し、途中経過を掲示したり放送したりするなどして参加率の向上を図った。「読書ビンゴ」では、様々な分類の本を読む機会になった。 図書ボランティアによる休み時間の読み聞かせは、本に親しんだり季節の行事などに触れるよい機会となっている。「家族読書」も、家族と一緒に本を読むことで心温まる時間を過ごせたようだ。今後も継続していく。
キャリア教育	<p><学校行事、学習活動と関連したキャリア教育の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事、特別活動、総合的な学習の時間、生活科を軸として年間計画に沿って実施する。 行事や取組について、各学年や個々の実態に応じて「今よりも少し高く」を意識した目標をもたせる。めあてに対するふりかえりを活動後に確実に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートの「学校行事、学習活動と関連したキャリア教育の推進について」の設問の肯定的な回答の割合は70%であった。行事や取組について、児童の実態に応じて目標をもたせて取り組ませることはできているので、行事のふり返り等、めあてに沿って書かれているものや成長を感じられるものを掲示し、全校での認め合いの場として広めていけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートの「学校行事、学習活動と関連したキャリア教育の推進について」の設問の肯定的な回答の割合は90.9%であった。運動会ややらやっ子フェスティバルでは、全校共通の振り返りカードを用いて、振り返りの仕方を共有して実践してきた。実施後は、児童の活動の様子と共に振り返りカードを掲示したことで、互いのよさや頑張りを認め合う場となった。今後も、教育活動全般を通して児童自身が成長を感じながら育つよう、児童自身のPDCAサイクルを継続し積み重ねていく。
保健安全教育	<p><自ら考え、健康で安全な行動をとろうとする態度の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの実態を踏まえた内容を学校保健委員会のテーマに設定し、児童自身が自分の健康について考え、改善していけるように活動を進めていく。 避難訓練3回（火災・地震・不審者）を行う。 集団下校訓練、交通安全教室を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 育友会と連携し、話し合いや保護者アンケートを行い、学校保健委員会の発表準備を進めることができた。9月に保健・給食委員会の子どもたちと自分の健康について考える話し合いなどを行い、学校保健委員会に向けての準備を進めていきたい。 5月に火災、7月に不審者対応の避難訓練を行った。2学期は地震の避難訓練、引き渡し訓練を行う予定で準備を進めていく。 集団下校訓練を行い、下校時の危険個所などを確認できた。交通安全教室では、自分の命を守る約束やルールについて学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 育友会と連携し、学校保健委員会を実施することができた。子どもたちが自分たちの健康について考えた内容の劇を考え、発表することができた。 地震の避難訓練、引き渡し訓練と2回実施した。引き渡し訓練は、いつ起こるか分からない自然災害などに対応できるように全保護者に協力していただき、昨年と違う形態で実施した。
情報教育	<p><児童・教師がICTを活用する力の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末の授業や家庭学習での有効活用を図ることで、発達段階に応じて学びの質を向上させる。 個別最適な学びの達成を目指す、自ら学習計画を立てたり思考を積み上げたりできるよう、児童・教師共に授業での日常的な活用を積み重ねる。 研修会を通して教師のICT活用指導能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習で学習用端末を有効活用しているかというアンケート項目に対して、児童と教職員の回答に大きな差があり児童の意識としては活用できていないと感じていることがわかった。授業では、思考ツールとして文章の組み立てやパワーポイントによる協働的な活動等でICT機器を活用してきた。今後も、家庭学習での有効活用と思考ツールとしての活用のいずれについても校内研修会を行い実践交流をしたり、ICTサポーターと連携したりすることで具体的な活用方法を探っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での児童の端末の利用については、調べ活動に個々で使用するのに加え、お互いの考えを共有したり、やり取りしたりすることに使用する場面が増えた。これは、「児童に委ねる」学習形態の成果の一つである。しかし、よりスムーズにお互いの考えを交流することができるように機能や方法を探っていく。 家庭学習での端末の使用については、中間評価に比べ、児童の肯定的回答の割合が上がった。学年や発達段階に応じながら、適切な課題の設定の仕方を探っていく。
家庭・地域との連携	<p><家庭・地域とともに進める学校づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校からの情報発信システムを工夫・活用し、スムーズに教育活動についての共有を図る。 校区の健全育成会議を中心にして、地域の諸団体・組織と連携を図り、教育活動に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種たより・通知等の発信方法を、保護者に早く確実に伝わることや児童への直接指導の必要性など、目的に応じて定め、特にメール配信を活用することで、スムーズに保護者や地域に学校からの情報が伝わるように整備を進めた。併せて学校ホームページもリニューアルし、学校教育活動についてより広く情報発信することができるようにした。 板津地区健全育成会議の取組として、健全育成ポスター・標語コンクールに全校で取り組んだ。 これまで長年行われてきた「八丁川ウォーク」については見直しを図り、カリキュラムマネジメントの観点から、八丁川ウォークの目標と教科の目標をリンクさせ、加えてより多くの児童が参加できるように低学年の授業として行うこととした。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童引き渡し訓練において、緊急時の情報発信システムを活用して保護者と連携し、スムーズに緊急時児童を引き渡す訓練を実施することができた。 板津地区健全育成会議の取組である健全育成ポスター・標語コンクールでは、板津校区の4校の応募作品から優秀作品を選考し表彰するとともに、4校と地域の施設・高校において掲示することができた。 「八丁川ウォーク」は、1・2年生の生活科の授業の一環として10月に実施した。児童は、秋の植物について知ったり遊んだりしながら地域の自然に親しむことができた。

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の学校生活に慣れ、楽しんで学校に行くことができているようでよかった。 友達といっしょに活動したり交流することができるようになってきている。 メディア（ゲームやインターネット）に接する時間が多く、生活リズムが崩れることに影響している。 自主的に家庭学習に取り組もうとする姿勢がやや弱く、集中して学習に取り組むことや時間等計画を立てて学習に取り組むことに課題がみられる。 学習や手伝いなど、自分で考えて行動することができるようになってきた。 苦手なことにも努力しようとする姿が増えてきた。 笑顔で楽しく生活することができている。 友達とのトラブルや嫌なことを言われることもある様子が伺える。子ども同士で解決できるよう成長を願いながら、子どもの成長を見取り、先生とも相談しながら対応していきたい。 新しい授業スタイルにも力を入れながら、これまでの学習の積み重ねも大切に力をつけられるようにしてほしい。 授業を参観しても、学びのスタイルの変化が感じられる。力を入れてきたことが現れてきている。 児童が主体的に学ぶことができるように、これからは教師の見取りや見通しの部分を意識して取り組んでほしい。 一般的に、自分の思いを伝えることがうまくできないことが、友達関係のトラブルや登校渋りの原因の一つになることも考えられるので、引き続き表現する力を伸ばすことを継続してほしい。
---------	---